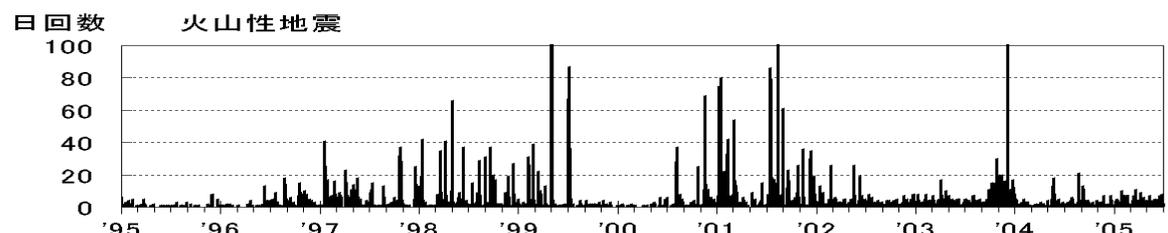
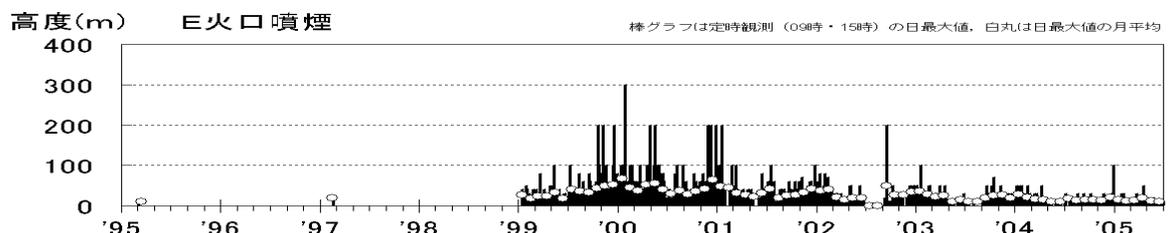
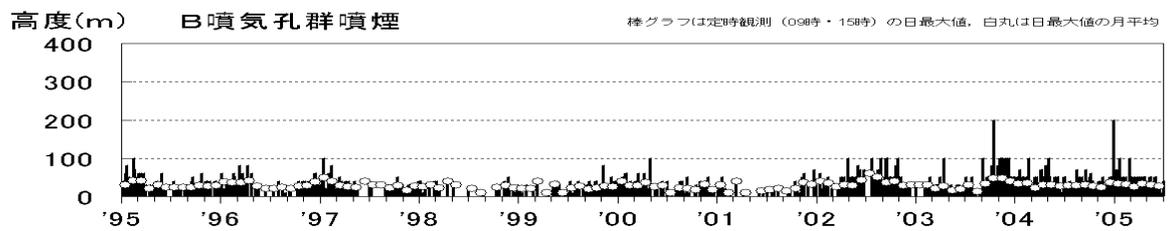
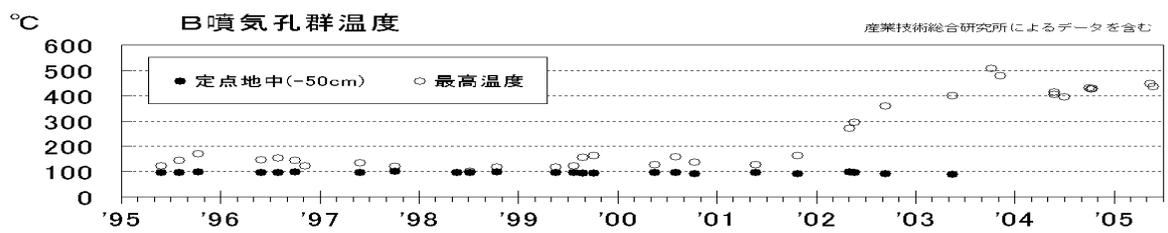
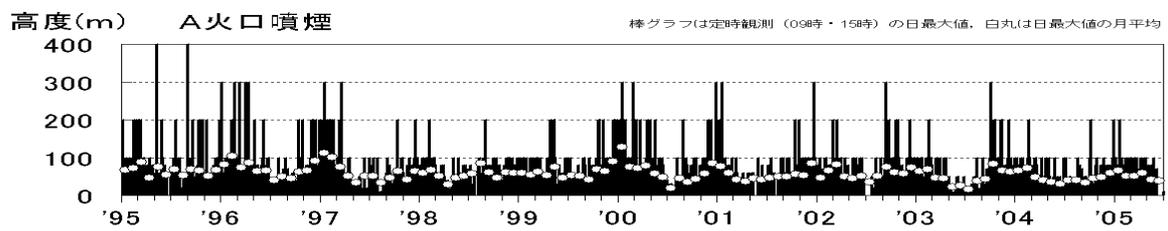
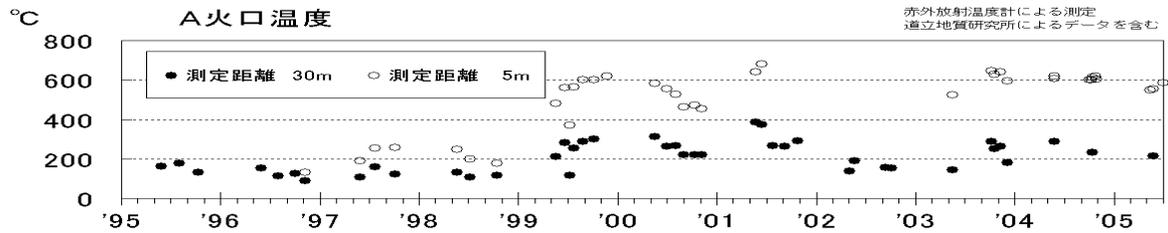


# 樽前山

## 1 概況

A 火口やB 噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図（1995年1月1日～2005年6月30日）

2 噴煙の状況

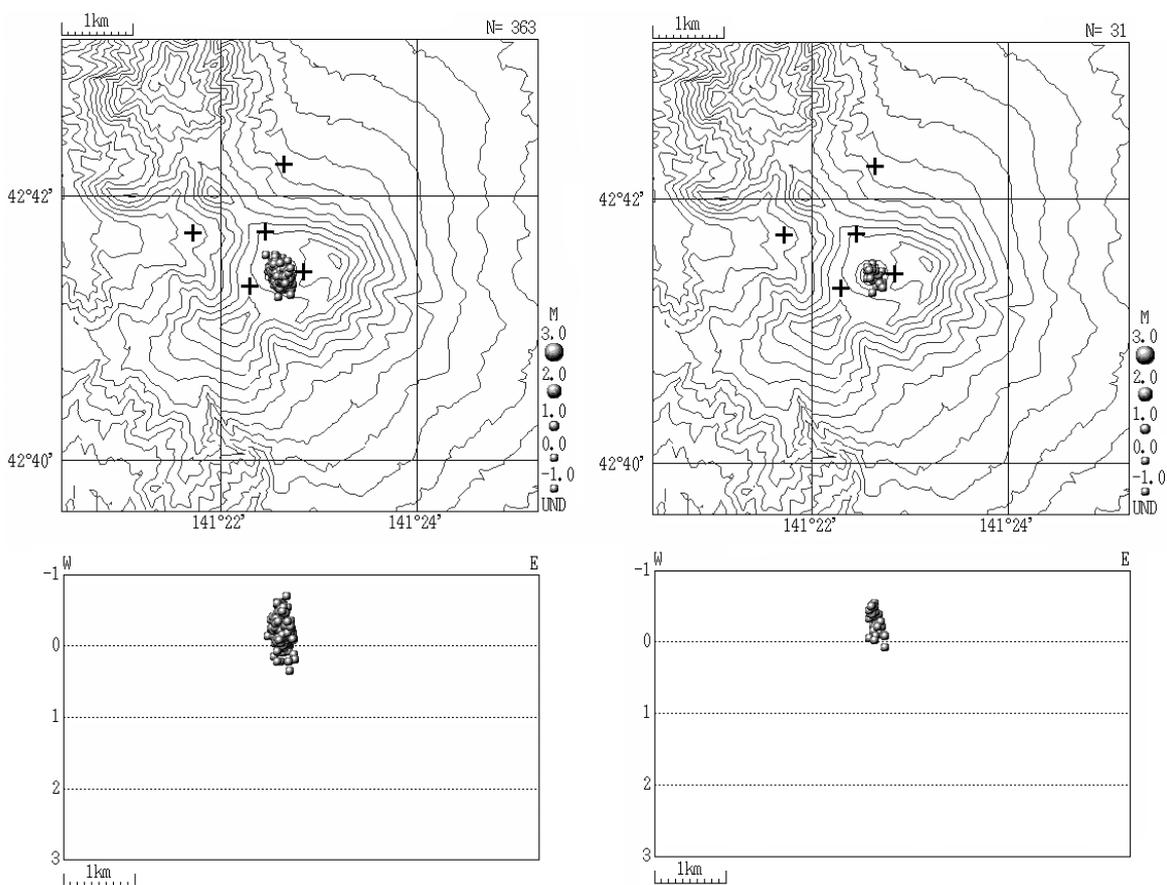
各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0~7 回とおおむね平常レベルで経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原浅部に分布していました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（C 点）

2004~2005 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数	44	46	81	24	39	25	55	59	77	62	46	75
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

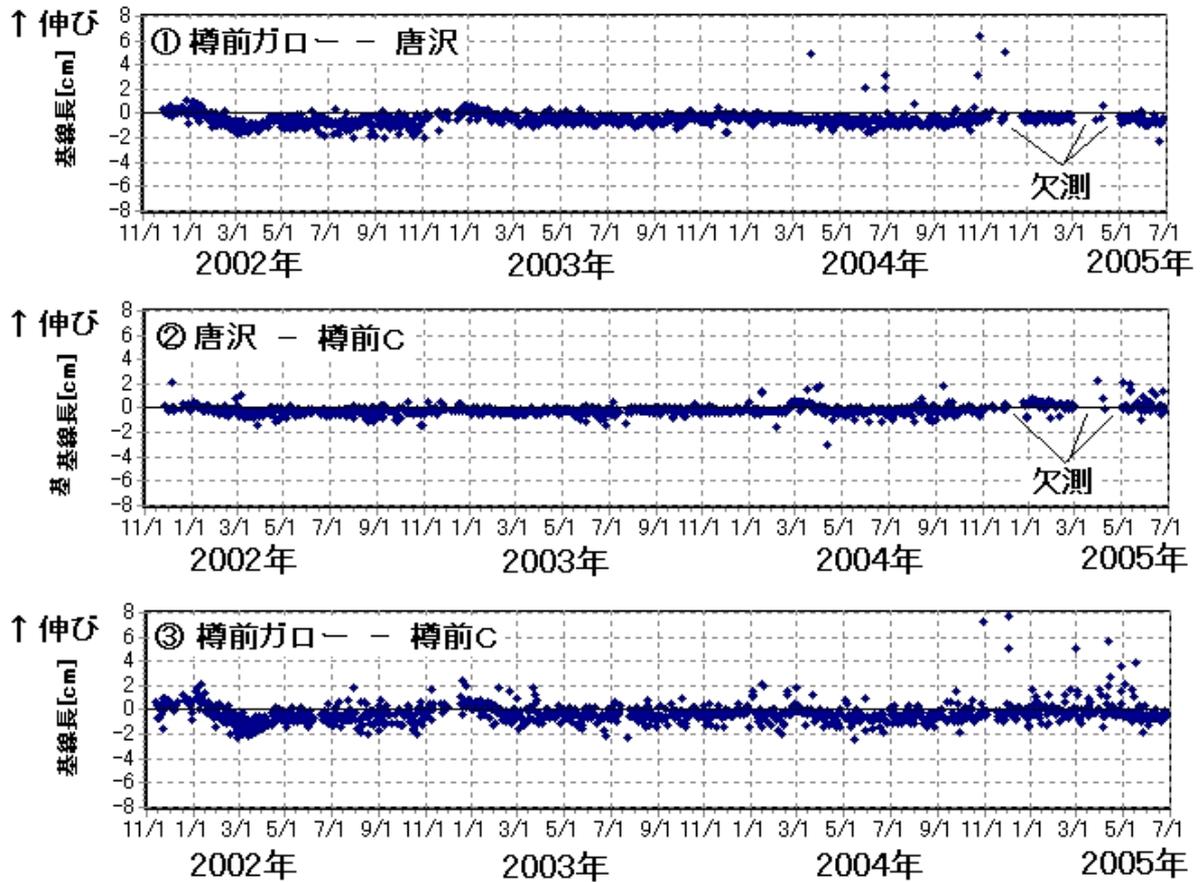
右図は今期間（2005 年 6 月 1 日～30 日）に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの 11 ヶ月間（2004 年 7 月 1 日～2005 年 5 月 31 日）に求めた震源を示しています。

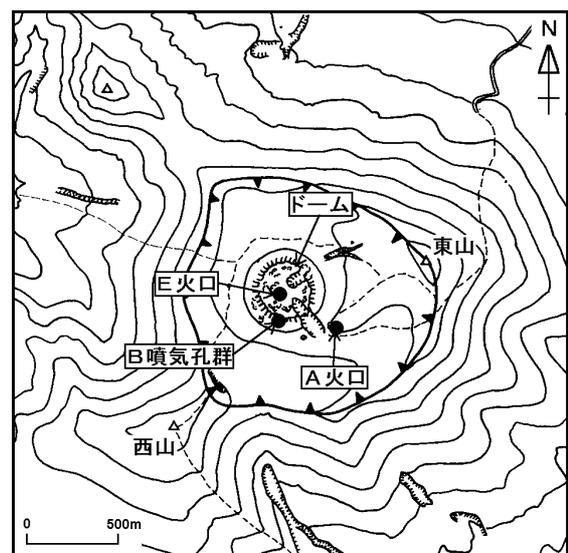
震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化（2001年11月14日～2005年6月30日）



樽前山山頂火口原図

## 5 上空からの観測結果

6月1日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ドームおよびドーム周辺の各火口、地熱域の状況にこれまでと比べて特段の変化は認められませんでした。A火口およびB噴気孔群では高温の状態が続いていると推定されます。

A火口の噴煙は出口付近までは透明な状態で、その後上昇途中で白色に変わり40m程度の高さまで上がっていました。B噴気孔群では、変色域内の2~3ヶ所程度から弱い白色の噴気が高さ40m程度まで上昇していました。変色域の状況に変化は見られませんでした。



南側上空から見たA火口周辺



ほぼ真上から見たA火口



南西側上空から見たB噴気孔群およびE火口



南西側上空から見たB噴気孔群

## 6 調査観測の結果

6月29日に赤外放射温度計\*により測定したA火口の温度は約580（先月26日：約560）で、高温の状態が続いていました。勢いは弱いものの、噴煙には強い刺激臭が認められました。

\* 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。